

2023年1月16日配信

ロームシアター京都×京都芸術センターU35 創造支援プログラム“KIPPU”

努力クラブ第 16 回公演 『世界対僕』

プレス資料

お問い合わせ：努力クラブ Mail: doryokukurabu@yahoo.co.jp

Tel: 080-8442-2080(制作・築地)



主催：努力クラブ

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）

京都市

令和4年度文化資源活用推進事業

公演趣旨

2011年に旗揚げし、結成12周年を迎える劇団・努力クラブによる『私演劇』。(※)コロナ禍においても、関西圏の主要な劇場での共催公演を、有観客上演してきた努力クラブが、本拠地京都で本公演を行うのは、実に3年半ぶりとなります。

総勢16名のキャストは、公募によるオーディションで選出。

京都拠点の中堅俳優や、学生劇団出身者、落語家など、20代前半～40代までの個性豊かな面々が揃いました。

実力ある俳優と、若き才能との共演も見どころのひとつです。

今回は架空の劇団の、架空の代表と劇団員が織りなす、架空の劇団解散のお話。悲劇と喜劇をないまぜにして、不条理を笑うしかなくなるような、ネガティブ・ナンセンスコメディです。

この3年間で、解散・無期限休止・引退…多くのニュースが相次ぎました。

演劇界に限らず、お笑い…バンド…YouTuber だってそうです。

この作品は、あくまでごくごく個人的な、とある小さな劇団の代表の、お悩み相談演劇。

世界の大きな流れもあるけど、

まずは自分の手前にある問題から取り扱わないと、心が潰れてしまう。

あなただってそうでしょ？

※『私演劇』とは

努力クラブが最近標榜している語。

文学に、作者が直接に経験した事柄を素材に書かれた小説をさす「私小説」があるように、作者である合田自身の事柄を素材に作られた努力クラブの作品を指す。私小説と同様、心境や内面描写が多く、リアリズムに基づいていることが多い。また、私演劇においては、現代の労働環境や置かれている状況など、プロレタリア文学的な側面もある。

公演概要

ロームシアター京都×京都芸術センターU35 創造支援プログラム“KIPPU”

努力クラブ第16回公演 『世界対僕』

日時

2023年2月

9日(木) 19:00

10日(金)14:00/19:00

11日(土)14:00/19:00

12日(日)14:00(託児あり★) ★託児につきましてはこちらのページよりご確認ください。

<https://rohmtheatrekyoto.jp/event/71201/>

出演(五十音順)

浅野有紀 阿僧祇(白河夜船) 伊藤隆裕(柳川) 岩越信之介(劇団なべあらし)

岡田菜見(下鴨車窓) 北川啓太 佐々木峻一 澤田誠(黒い犬) 瀧口蓮時

橘カレン(幻灯劇場) 月亭太遊 内藤彰子(喜劇結社バキュン!ズ) 西マサト

もえりーぬ 横山清正(気持ちのいいチョップ) 乱痴パック(演劇集団Q)

チケット料金

自由席 ※チケット発売中

前売：一般 3,000 円、学生 2,500 円、18 歳以下無料(要予約)

当日：一般 3,500 円、学生 3,000 円

※未就学児入場不可

※学生券・18歳以下をご購入の方は、公演当日、年齢が確認できる証明書のご提示が必要です。

チケット取扱窓口

・ロームシアター京都オンラインチケット (<https://www.s2.e-get.jp>)

・ロームシアター京都チケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-746-3201 (10:00~19:00、年中無休)]

・京都コンサートホールチケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-711-3231 (10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)]

・劇団予約フォーム (<https://www.quartet-online.net/ticket/sekaivsme>)

スタッフ

舞台監督=長峯巧弥 美術=松本謙一郎 音響=森永恭代 朝葉修(chicks) 照明=渡辺佳奈

制作=築地静香 制作補=Jaz 応援=沢大洋

あらすじ

架空の劇団の、架空の代表と劇団が織りなす、架空の劇団解散のお話。

これからも続けていくのか、もう今回限りでやめてしまうのか、悩んでいる真っ只中。

続けたい理由もやめてしまおうという理由もどちらも僕の中にはあって、だから劇団得体の知れないヤツらの解散公演とは銘打たないし、でも、そうなる可能性はある。

一人で決めてしまってもよいものか、相談はした方がいいだろうな、そもそもなにが楽しくて続けてきたのか、なにに苦しんでいるのか、打ち明けたってどうせわかってもらえないだろう、いやずっと一緒に劇団をやってきた仲間なのだからきっとわかってくれるだろう、一緒に答えを導き出してくれるだろう、もしかしたら言わずともわかっているかもしれない察してくれているかもしれないきっと察してくれているだろう仲間だからそれが当然だろう、この恐怖はきっと僕だけのものじゃないはずだそれが当然だろう仲間なのだから。

ロームシアター京都×京都芸術センターU35 創造支援プログラム“KIPPU”とは

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム。創作に専念できるスタジオ（京都芸術センター 制作室）と、舞台設備の備わった劇場（ロームシアター京都 ノースホール）の提供を通じて、舞台機構の活用、作品サイズや活動フィールドの拡大等に挑戦する概ね 35 歳以下のアーティストを募集し、新たな才能が京都から国内外へ羽ばたくことを期待しています。

脚本・演出：合田団地(ごうだ・だんち)



1987 年高槻生まれ。努力クラブの代表。脚本・演出を務め、また、俳優として外部の劇団にも精力的に出演する。高校入学とともに演劇を始め、佛教大学の劇団紫では団長になる。2011 年 3 月、立命館大学の劇団西一風で座長をしていた佐々木峻一と共に「努力クラブ」を結成する。大学時代からの参加した演劇公演は、劇団内外を合わせると 50 作を超える。また、2021 年 3 月まで Kiss-FM KOBE ラジオドラマ『STORY FOR TWO』レギュラー作家を務めた。俳優としては TV 出演など複数。

略歴

2012 年、第 18 回 日本劇作家協会新人戯曲賞一次選考通過(4 回公演『よく降る』)。

2016 年、第 3 回北海道戯曲賞最終選考(10 回公演『船の行方知らず』)。

2018 年、第 24 回劇作家協会新人戯曲賞一次選考通過(したためとの共同企画“粘土の味”『オフリミット』)。

2019 年、第 25 回劇作家協会新人戯曲賞一次選考通過(13 回公演『どこにも行きたくないしここにもいたくない』)。

2021 年、岸田國士戯曲賞一次選考に推薦(14 回公演『救うか殺すかしてくれ』及び『リゾート(なかった青春の末路としての)』の 2 作。)

出演者



浅野有紀 (あさのゆうき)

劇団〈未定〉出身。卒団後もぼちぼち頑張っている。努力クラブでは「涼しい。」「救うか殺すかしてくれ」に出演。



阿僧祇 (あそうぎ)

白河夜船主宰。俳優、演出、被写体等として活動。

過去幻灯劇場『鬱憤』ユズハ役、既成戯曲演出シリーズ『アルカディア』トマシナ役などを演じる。少女、人外、男性ばかりやっていて、一般的な女性の役はほとんどやったことがない。



伊藤隆裕 (いとうたかひろ)

立命芸術劇場出身。

2000年から「柳川という名の劇団に参加。舞台美術と俳優を担当していました。



岩越信之介(いわこしんのすけ)

劇団なべあらしに所属。

自団体で演出をしながら、京都を拠点に役者活動をおこなっている。

近年は全国学生演劇祭出場団体の演劇企画モザイク、幻灯劇場、The smoke shelterなどに出演。



岡田菜見 (おかだなみ)

1997年生まれ。下鴨車窓所属。高校卒業後、大阪文化服装学院に進学したが、役者になりたいという思いが押さえきれず退学。2017年より演劇活動を開始。2018年には、ビギナーズユニット#25に参加し、2020年に下鴨車窓の劇団化とともに所属。



北川啓太 (きたがわけいた)

京都の人。大学で芝居を始め、楽しいので今も時々やる。

最近は写真や映像を撮ったりもする。

働くのがあまり得意ではない。

出演に努力クラブ『どこにも行きたくないしここにもいたくない』『救うか殺すかしてくれ』、下鴨車窓『散乱マリン』など



佐々木峻一 (ささきしゅんいち) : 劇団員

1988年島根県生まれ。2007年～2009年立命館大学のサークル劇団西一風に所属。2011年合田団地とともに努力クラブを旗揚げ。現在まで所属。

2022年『偶然の仲間たち』を主催。

近年は努力クラブの他に、mimacul、蛸蔵ラボ、点々の階、山下残振付・演出作品、下鴨車窓、ブルーエゴナク、居留守、村川拓也演出作品、劇団衛星、夕暮れ社 弱男ユニットなどに出演。(撮影：中谷利明)



澤田誠(さわだまこと)

舞夢プロ所属。

エンタメ野外アングラ身体前衛アート系等の芝居を経て今は会話劇がブーム。

澤田誠企画で「イマまでに無い、俳優と戯曲の組合せ」を主題に企画・構成・演出する。合田くんとは『恋人じゃない人を誘う』とか『よぎちゅー』とか『まだ、わかんないの。』とか。



瀧口蓮時(たきぐちれんじ)

兵庫出身。2019年、京都大学公認演劇サークル劇団ケツペキに所属し、演劇活動を開始。

以降、同サークルの公演や学生劇団を主として出演を重ねている。努力クラブへの参加は初。



橘カレン (たちばなかれん)

兵庫県出身。『誰かが想うよりも私は』にて努力クラブ作品に初参加。2022年は幻灯劇場の音楽劇『鬱憤』、音楽劇『0番地』への出演のほか、泊まれる演劇への映像出演や京都市×TikTokドラマ第5話『引越編』の主演など。



月亭太遊(つきていたいゆう)

落語家。大分県出身。1984年生。新作落語を生業としながら映画や演劇にも出演。
合田団地とは彼が高校生の時からの知り合い。



内藤彰子(ないとうあきこ)

京都府出身、大阪府在住。高校で演劇部に入ったことがきっかけで演劇に関わるようになる。2020年より同年に旗揚げされた不条理コメディを専門とする劇団『喜劇結社バキュン!ズ』に所属。以降も劇団内外問わず何かと出演しています。



西マサト(にしまさと) : 劇団員

1983年大阪生まれ。立命館大学劇団立命芸術劇場出身。2006年「Will Be SHOCK EntranceGate」を旗揚げ。2012年「B級演劇王国ボンク☆ランド」を建国。芸術の内に数える人が少なそうな題材・心情を“B級”とし、それらを演劇にすることを志し、脚本・演出を担当。俳優としても活動している。2020年、努力クラブのメンバーになる。2020年、第3回田畑実戯曲賞を受賞(ボンク☆ランド vol.7『まるで純情フォークロア』)。



もえりーぬ

滋賀県長浜市在住 フリーの役者。コントや一人芝居を作ったり演じたり、歌ったり踊ったり演じたり喋ったりしている24歳。

努力クラブさんとは、今年の #INDEPENDENT で西マサトさんとご一緒させていただいたというご縁があります 🌸

どんな舞台になるのかとってもたのしみです 🌸



横山清正(よこやまきよまさ)

札幌育ち。劇団立命芸術劇場を経て、月面クロワッサンを経て、小川晶弘と役者同盟、気持ちのいいチョップを締結。京都を中心に活動。ラジオを聴くのが好きです。幼少期は「にこにこぷん」や「ドレミファ・どーなっつ!」を好んで見ていました。



乱痴パック（らんちぱっく）

大阪府出身。演劇集団 Q に入団。そろそろ卒団らしい。

近年の出演は、演劇実験室 万有引力 『盲人書簡 少年倶楽部篇』、既成戯曲の演出シリーズ『特急寝台列車ハヤワサ号』など。

団体概要



2011年3月に佛教大学 劇団紫で団長をしていた合田団地と、立命館大学 劇団西一風で座長をしていた佐々木峻一を中心に結成。現在団員は4名である。京都を中心に活動している。本公演では、ネガティブな題材を用いてコメディをする。不条理なナンセンスコメディなんて自分たちでは言っているが、果たしてどうでしょうか。

必見コント集というコントの企画では、今まで笑いの材料として用いられていないものを使って笑いを作ろうと思っています。そういうコントをしようと思っています。なんとなく嫌なものに対しての救いになりたいというのが、僕らの希望です。嗚呼、駄目なものに対して優しくありたい。

構成員名簿(2023.1.7 時点)

築地静香(34 歳/代表・制作)

合田団地(35 歳/脚本・演出・俳優)

佐々木峻一(34 歳/俳優)

西マサト(39 歳/俳優)

略歴

神戸アートビレッジセンターの KAVC FLAG COMPANY 2020-2021 に選出。

2021 年、京都芸術センターからの委託により KAC Performing Arts Program 2021 にて、作品制作を行う。

伊丹アイホールの Break a leg 2022 年度に選出。

また、東京渋谷ユーロライブのテアトロコントに複数回参加している関西唯一の劇団。

合田の活動としては、2021 年 3 月まで Kiss-FM KOBE ラジオドラマ『STORY FORTWO』レギュラー作家。

2019 年からアカルスタジオで演劇講師を務める。

活動年表(団体名義の作品発表の機会として)

- 第 15 回公演『誰かが想うよりも私は』(2022 年 6 月)
テアトロコント vol.56 渋谷コトセンター月例公演「わいわいぼかぼかほりでー」(2022 年 3 月)
火曜日のゲキジョウ 30×30pair.151 努カクラブ×ニュートラル「わいわいぼかぼかほりでー」(2022 年 3 月)
火曜日のゲキジョウ 30×30pair.148 努カクラブ×Lucy Project「ドラゴンの気持ち」(2022 年 2 月)
THE GO AND MO'S 第 32 回公演「大塚の術」にて「憧れられたジュリー」(2021 年 11 月)
6 月 1 日公演 努カクラブ「レジャーパーク」×B級演劇王国ボンク☆ランド「ザ・女ドラゴン 燃えるピキニヤンチャク」(2021 年 6 月)
第 14 回公演「救うか殺すかしてくれ」(2021 年 1 月)
火曜日のゲキジョウ【30×30】pair.137「私の数少ない友達のうちのひとつ」(2020 年 10 月)
努カクラブ配信公演「ゲームしてる彼氏のとなりの」(2020 年 8 月)
努カクラブのやろうとおもってなかったけどやりたくなかったのでやります公演「涼しい。」(2020 年 1 月)
渋谷テアトロコント vol.39「夜、世界をふたりで抜け出す」(2019 年 9 月)
火曜日のゲキジョウ【30×30】pair.121「夜、世界をふたりで抜け出す」(2019 年 9 月)
3 CASTS vol.13「たのしい!」(2019 年 7 月)
第 13 回公演「どこにも行きたくないしここにもいたくない」(2019 年 6 月)
第 12 回公演「少年少女」(2018 年 11 月)
3 CASTS vol.3「カレー」(2018 年 9 月)
第二回縁劇フェス「タバタさんの車で連れていってもらおう」(2018 年 06 月)
ロフトプラスワンウエスト presents 劇団対抗コントバトル『ゲキバト!!2nd-season』# 2「北校舎 4 F 廊下」(2017 年 11 月)
渋谷テアトロコント vol.23「こんにちはこの世界」「幸福を呼ぶ幸せの石-ラッキーストーン-」「放課後、図書室の前で」(2017 年 10 月)
リクウズルーム×努カクラブ〔飾〕「Are you wearing clothes?」(2017 年 08 月)
コント持ち寄り公演「小騒動」(2017 年 06 月)
やりたくなかったのでやります公演「フォーエバーヤング」(2017 年 04 月)
ミソゲキ 2016「孤立無援くん、安息の場所へ」(2016 年 12 月)
雲劇祭 2016「それでも明るい奴等」(2016 年 10 月)
第 11 回公演「ピエロどうもありがとうピエロ」(2016 年 08 月)
アトリエ劇研スプリングフェス vol.1 創造サポートカンパニーショーケース「見せたい下手な手品ショー」(2016 年 04 月)
大大阪舞台博覧会「こんなにも悲しくなってしまった」(2016 年 02 月)
かもめ神奈川短編演劇祭「憶えていてもらえない人の冒険」(2016 年 01 月)
10「船の行方知らず」(2015 年 11 月)
9「彼女じゃない人に起こしてもらおう」(2015 年 05 月)
火曜日のゲキジョウ【30×30 pair.40】「憶えていてもらえない人の冒険」(2015 年 03 月)
BRDG×努カクラブ×したため合同企画「ドメスティックサイエンス」(2015 年 01 月)
必見コント集# 3「おモチ味のうどん」(2014 年 11 月)
gate リターンズ「止まない雨も明けない夜も」(2014 年 08 月)
8「魔王城」(2014 年 06 月)
7「深い緑がねじれる」(2014 年 02 月)
必見コント集# 2「流したくない涙を流した」(2013 年 10 月)
6「家」(2013 年 06 月)
必見コント集# 1「正しい異臭」(2013 年 04 月)
5「旅行者感覚の欠落」(2012 年 12 月)
4「よく降る」(2012 年 07 月)
3「無目的チーム」(2011 年 12 月)
GATE #4「空白ならなかった」(2011 年 10 月)
2「牛だけが持つ牛特有の牛らしさ」(2011 年 06 月)
旗上げ公演「魂のようなラクダ、の背中に乗って」(2011 年 03 月)

批評・紹介文

努力クラブ第15回公演『誰かが想うよりも私は』 劇評 2022年6月4～5日@AI・HALL

名もなき恋人の背中

————— 新里直之（京都芸術大学舞台芸術研究センター研究職員／演劇研究者）

（前略）

今回の作品は、プライベートライフに焦点をあてているが、同時に〈社会〉と〈私〉との関係の根っこに控えている孤独や「苦しさ」に鋭くアプローチしている。その意味において、すでにここには「いずれ向き合う」問題の端緒が胚胎しているのかもしれない。「手前の問題」から「世の中の問題」へと重心を移すのか、それとも「手前の問題」に徹することで「世の中の問題」との境界面に光をあてるのか。いずれにしても努力クラブらしいやり方で、今後の創作が積み重ねられていくのを楽しみにしている、成功を祈りながら。

<https://k-engeki.net/archive/article/77>

努力クラブ第14回公演『救うか殺すかしてくれ』 劇評

2021年1月22日(金)～24日(日)@神戸アートビレッジセンター

オッサンを煩悶させる力

————— 溝田幸弘（神戸新聞文化部）

（前略）人は生きていく上で、自分自身の外部に「よりどころ」となる何ものかを必要とする。文化や時代によっては、それが神や宗教であったりもするけれど、現代日本では恋人やパートナーといった「自分以外の人間」が心の支え、というケースが多いだろう。そういった存在を通して人は、自分は今のままでも良い、あるいはこの部分を改善すれば存在しても良い、という風に、自分自身を肯定し、生きていける。そのよりどころが神や宗教であればただすぎるだけでもいいのかもしれないが、それが生身の人間、それも付き合う前の異性となれば、いきなりすぎりついても気持ち悪がられるのが関の山だ。程よい距離感で、余裕を持って接しなければ引かれてしまう。「よりどころ」を持たないまま、長年生きてきた西は結局、それだけの心の余裕を持たないほど追い詰められていたのだろう。（後略）

<https://www.kavc.or.jp/kfc/2020-2021/comment/company02-01.html>

KAVC FLAG COMPANY 参加 努力クラブ第 14 回本公演「救うか殺すかしてくれ」に寄せて

2021 年 1 月 22 日(金)~24(日)@神戸アートビレッジセンター

さまざまな若気を「笑えないユーモア」の元で描く。

-----吉永 美和子 (ライター)

理由はないけど、何となく不満。理由はないけど、何となく死にたい。青春時代に一度は取り憑かれがちなマイナスの情念を描きつつも、印象として決して暗くなり過ぎないのは、その会話や演技のはしばしから、妙なおかしみがダダ漏れるせいだ。深刻なテーマを笑いでコーティングすることで、口当たりを柔らかくする芝居は多いが、ユーモア精神をダークな物語でおおい隠すという、こんなヒネた芝居を作るのは彼らぐらいだろう。「笑えないユーモア」と呼ぶべき舞台は、ひとクセあり過ぎるがゆえに、忘れられない観劇体験になるのは確実だ。

<https://www.kavc.or.jp/kfc/2020-2021/company02.html>

努力クラブ第 8 回公演『魔王城』 劇評・・・2014 年 06 月@アトリエ劇研

傍観者の欲望と悪意が積み上げる「城」

-----高嶋 慈(美術批評。京都大学大学院博士課程:美学美術史学)

(前略) 終盤、劇作の合田団地自身が登場し、「魔王城なんてなかった」と覆す。(一略) 重要なのは、「僕らは、魔王城の話をしている時、魔王城なんて『ない』と思っている。それはとても現実的だ」「嘘を前提にしている限り、魔王城は『存在する』」というくだりである。これは、演劇やフィクションへのメタ的な言及としても捉えられる(ブロックで「積み木の城」を文字通り舞台上に積み上げて退場することが示唆するように)。のみならず、圧倒的な情報量を前にしては傍観者になるしかない私たちが日々吐き出す、無責任な発言や憶測、欲望の転嫁、不満のはけ口が、実体のないもの(噂、誹謗中傷)をあたかも実在物であるかのように存在させ、匿名で書き込めつづやけるネット環境によってその状況が加速度的に肥大していることのメタファーとして受け取ることができる。そこに本作の批評性を見た。

<https://gekken.net/gf9/review/review.html>